



観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



株式会社ショーデジテック
営業部 ライティングデザイングループ 兼
Creative Lab. AC マネージャー

山下 匡紀

はじめに

かつてのリゾート・団体旅行ブームの頃から比べると、宿泊施設内のライトアップなど屋外照明が果たす役割はLEDの登場によって大きく変貌しました。省エネ性はもちろん、照明器具性能の進歩によってロケーションの魅力

を余すことなく表現できるため、宿泊者や潜在的な旅行者への訴求力ははるかに高まっています。

近年のホテル・旅館の開業ラッシュにより最新の流行を取り入れた建築デザインや照明の雰囲気、OTA上で素晴らしく写真映えしているかと思えます。新しいというだけで綺麗にかつ洗練されて見えてくるものですが、従来から頑張っているホテル・旅館に対しても、競争力をつけるべく高付加価値化や事業再構築といった補助金事業が用意されて施設改修へ大きな弾みをつけました。その中でも屋外の照明設備を含めた外構・庭園の改修は、重要な価値創出の一躍を担えるとして注目を集めています。

ローボルト照明で生まれる可能性

昭和から平成にかけては、ただ明るく照らしているだけでライトアップ

プとして成立していました。屋内の改修は客室を中心にお金を生み出せる箇所のため定期的に手をかけていきますが、屋外の照明設備の更新は電気工事のコストがかかるという印象や、照明器具にもさまざまな種類があるため実際に照射しないと適切な照明が見分けがつけられず、担当者が直感的に行なうには着手しにくい要因が多くあります。

着手しにくいからといって、どこを照らしているのかわからない照明が転がっていたり、点灯はしているけれどランプの寿命や汚れで薄ぼんやり灯っているだけの照明をお客さまの目につくところで放置しておく、印象を悪く受け取られてしまいがちです。

近年増えてきているローボルト照明にはそれらを払拭できるメリットがあります。それは通常の電気工事の施工よりも少ない工数で施工ができ（※1）、なおかつ安全で屋外照明

和歌山マリーナシティホテルライトアップ



before



after

照明のホスピタリティ、ローボルト照明が持つホテル・旅館への可能性

(株)タカショーデジテック
営業部 ライティングデザイングループ 兼 Creative Lab. AC マネージャー

山下 匡紀

黒川温泉やまびこ旅館ライトアップ



before



after

土湯温泉山水荘ライトアップ



before



after

のプロである照明デザイナーによる提案を受けられる(※2)という点で、施設の魅力の再発見や価値の創出につながる可能性があるからです。

照明からのホスピタリティの重要性

非日常な時間の過ごし方が求めら

れるホテル・旅館では「綺麗なお庭を眺めながら夕食が楽しめたね」、「夜のお庭が雰囲気良くて綺麗だからちょっと散策しよう」、「幻想的だから記念に一緒に写真を撮ろう」などといったシーンを生み出すことで顧客満足度が高まるため口コミに期待できます。また、写真の印象が

劇的に変わることによってOTA上での宿泊先候補としても上がるが増えることでしょう。

施設の景観を活かした照明の演出でおもてなしを図ることは、総体的に施設全体の魅力としてハードとソフトをバランス良く提供できる付加価値へつながるものだと私たちは考えています。多くのホテル・旅館の皆様とお話していても、照明は雰囲気を作ってくれるのでとても重要だという声をたくさん伺います。

宿泊時間の約30%が夜のアクティブタイム(※3)と仮定すると、競争にできないことから、客単価を上げていくための武器として捉えていらっしゃる経営者の方も多くいらっしゃいます。しかし、どこにどのようなお願いをしたら良いかわからなかったという声も同じくらいいただいたことで、私たちは照明からのホスピタリティの重要性を発信し続けてまいります。

●「タカショーデジテック 光のリノベーション」で検索していただきますと、屋外照明のリーフレットがご覧いただけます(参考 URL: <https://takasho-digitec.jp/ctlgform/>)

※1 ローボルト®システムは電気工事士資格がない方でも施工が可能。100Vと比較して安全なため、電源線の敷設時も地面を掘り返す必要がなく、コードに軽く土を被せるだけでOK。作業量が少なく短時間で済むため施工費用を抑えられます。

※2 予算に応じてイメージ事例やCG作成、現地でのデモンストレーションなどでお伝えします。

※3 C.I.15:00～C.O.10:00のうちアクティブタイムを約5～6時間とした場合。

連載

SERIES